

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わんぱくすまいる保育園
施設所在地	東京都江戸川区松島3-39-15

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭では季節問わず水を使って遊ぶ子どもたち。園庭は土があり泥遊びも頻繁に行われます。当たり前のように水を使う日常ですが、透明の水と泥を含んだ濁った水の違いに気づくようになります。

水に浮く・沈むに気づき、水の流れに注目します。泥水を透明にするには?と考えるようになり、水はどこからくるの?と疑問を持つようになります。興味を膨らませ発見や探求にあふれています。季節ごとの自然に触れる中で水に着目し、興味を深め疑問を試し「もっと知りたい」をさらに引き出していきたいと考えました。

2. 活動スケジュール

5月：水の観察や触れてみる。

6月ー9月：水遊び・泥遊び。

11月：水の科学館へ遠足。

12月：水を使った実験（ろ過）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

環境設定として、大きなクリアケースに水を入れて、浮くか沈むか子どもたちの興味のある物を準備する

園庭の砂を増量して水の流れを実際に見えやすくする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

水を入れたクリアケースに物を入れてどうなるかを試したり、泥水がどうなったら透明な水になるのかを水の科学館に行って方法を知る。透明な水になるようろ過装置を作成し、何度も試し探究する。

園庭での水遊びを通して、地面を流れる水を追ったり、水の流れて地面の砂がどのような形に変化するか探究する。

探究活動の様子は動画及び写真で記録する。また子ども自身気づきを画用紙に記録した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

4, 5月は雨が降った次の日に出かけ、大きな水たまりに驚いたり、そっと触れてみる姿があった。その中で、日陰の水たまりと陽向の水たまりの温度の違いに気づき子どもたちが伝え合っていた。

6, 7月になると泥水遊びが始まり、水に触れる機会が増える中、泥が水に混ざる様子を見て不思議に感じている姿が多かった為、ペットボトルや絵の具を用意し、園庭で色水あそびにじっくりと取り組める環境設定をした。その後も8, 9月には毛糸を流しそうめんに見立て水の流れを観察したり、大きなコンテナボックスを用意し、身の周りの物を浮く・沈むの予想立てをしながら実験をした。

11月には水の科学館へ遠足を計画、実施。温水と冷水が混ざり合う実験を見たり、ダムの水が川へ流れていく様子を映像で見たりして水がより身近でその面白さを感じる体験となった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

水は子どもたちにとってとても身近なものであるが、テーマとして深めると難しさを感じる場面もあった。時折行っていく実験あそびも上手いかず保育者も子どもたちと一緒に試行錯誤しながら取り組んでいった。面白さや不思議を感じる場面は子どもそれぞれ違い、友だちの発見に目を丸くする姿が印象的だった。

今後も子どもたちの気づきが次につながる環境を設定していきたい。